

こいしわらがわ

小石原川ダム防災操作による河川水位低減効果について

みずしげんきこう
独立行政法人水資源機構が管理する小石原川ダム（福岡県朝倉市）では、6月29日からの降雨により増水した河川水の一部を一時的にダムへ貯め込む「防災操作」を行いました。

この防災操作により、小石原川ダムの下流約22キロメートルにある栄田橋地点では、ダムが無い場合と比べ河川水位を推定で約47センチメートル低減できました。

今回の防災操作は、以下のとおりです。

筑後川水系小石原川の小石原川ダム流域では、九州北部に停滞した前線に伴う豪雨により、6月29日から7月3日までに総雨量541.5ミリメートルの降雨を記録しました。

この降雨により小石原川ダムでは、約679万立方メートルの洪水を貯留しました。最大流入量毎秒約78立方メートルの時に、ほぼ全量に相当する毎秒約78立方メートルの水を一時的にダムに貯留することで、河川水位の上昇を抑える防災操作を行いました。

※ 今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。



令和5年7月6日

みずしげんきこう
独立行政法人水資源機構 筑後川上流総合管理所

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 筑後川上流総合管理所

管理課長 山本

住所 : 福岡県朝倉市江川 1660-67

電話 : 0946-25-0113

HPアドレス : <https://www.water.go.jp/chikugo/asakura>

小石原川ダムの洪水調節による治水効果（筑後川水系）

速報値

令和5年7月

 独立行政法人
 水資源機構
 筑後川上流総合管理所

- 前線に伴い、小石原川ダム上流域において累計440.5mm（6月29日3時～7月2日0時）、累計101.0mm（7月3日2時～12時）と2回の雨量を観測しており、2回にわたる雨の累計は541.5mmに及んだ。
- 小石原川ダムでは、全体で約679万立方メートル（1回目：約628万立方メートル、2回目：約51万立方メートル）もの洪水を貯留。1回目の雨では、最大流入量毎秒約78立方メートルの時に、毎秒約78立方メートルの水をダムに貯留することで、河川水位の上昇を抑える防災操作を行い、最大流入時の流下量を**ほぼ全量低減**。
- これにより、ダム下流の栄田橋地点において**約47センチメートルの水位低減効果を発揮**することができたと推定。
- 直下の江川ダムは、かんがい補給で容量が空いていたため事前放流は行わず、540万立方メートルもの出水を貯留。

小石原川ダムの状況

【最大流入時：令和5年6月30日 13時10分時点】

【放流量】

下流河川へ流す水量
 （最大流入量時の放流量）
 ②毎秒約**0.15**立方メートル

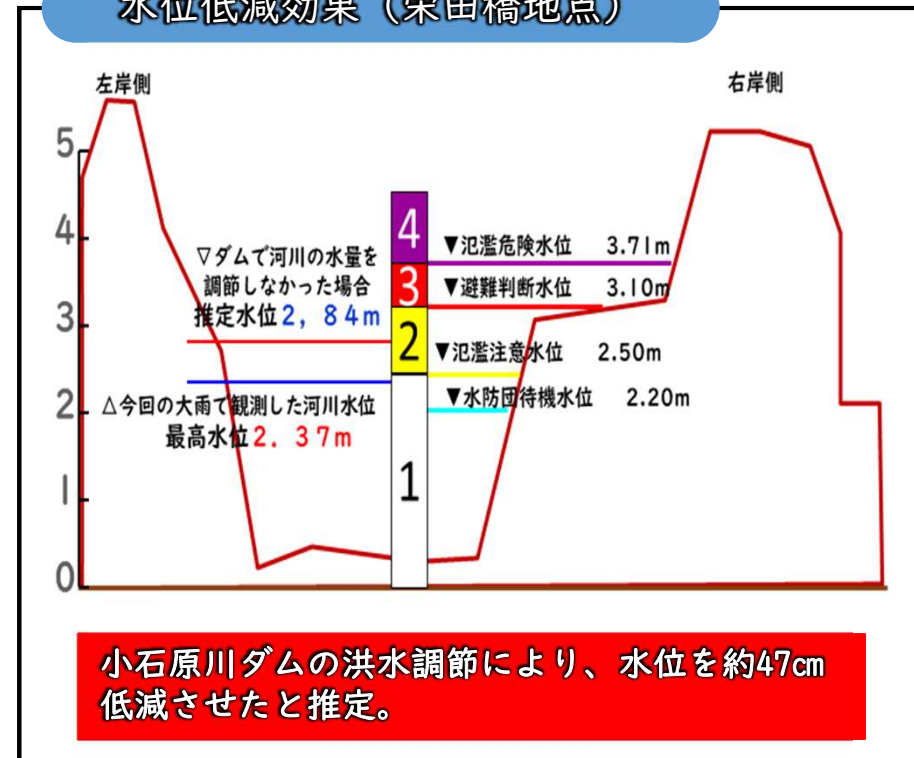
【流入量】

ダムに流れ込んだ水の量
 ①最大毎秒約**78**立方メートル



※1 洪水時最高水位：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位

水位低減効果（栄田橋地点）



小石原川ダムの洪水調節により、水位を約47cm低減させたと推定。

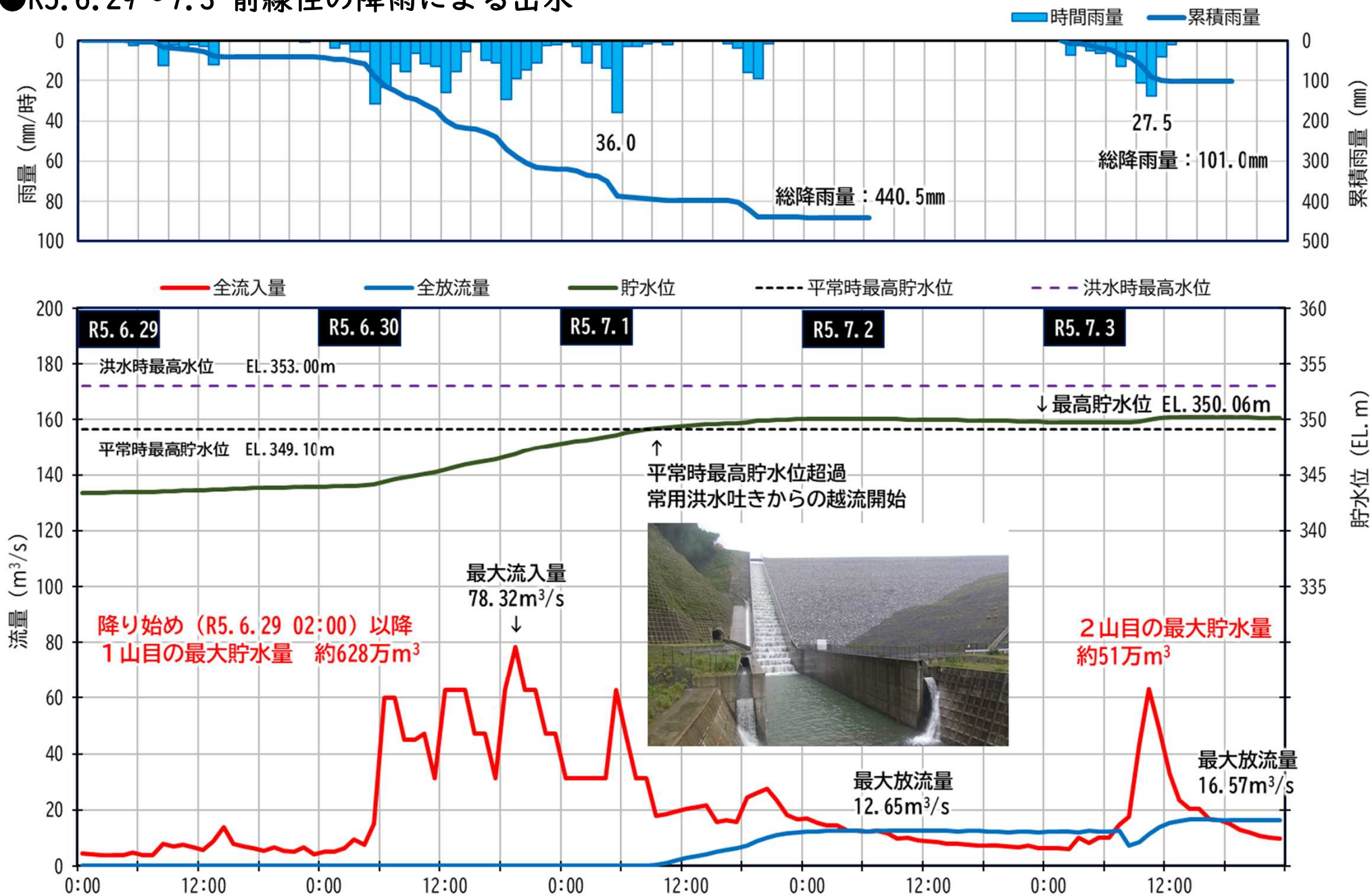


R5.7.1 10:00頃撮影

※本資料の数値は、江川ダムの貯留を考慮しない場合の治水効果です。また、速報値及び暫定値であるため、今後の調査により数値等が変わることがあります。

【参考】小石原川ダムの防災操作

●R5.6.29~7.3 前線性の降雨による出水



【参考】江川ダムの操作 ※洪水調節を目的に持たない

●R5.6.29～7.3 前線性の降雨による出水

